

山行NO NO. 1794-1
日時 2018.04.28(土) 快晴
山域 鳥海山・新山(2236m) 七五三掛まで
コース 鉾立登山口発6:55-鉾立コース-御浜小屋8:54-扇子森-七五三掛10:47~11:00-御浜小屋11:45~12:05-滑降開始-象潟コース-鉾立分岐-ブルーライン上12:50-ブルーライン(歩き)-鉾立駐車場13:20
標高差 上り 鉾立駐車場約1150m~七五三掛1850m=約700m
下り //
参加者 GT, KH

鉾立コースは厳しかった

昨年の5月連休は、新潟の山を三つ上った。いずれの山も低山の割に標高差があり厳しかった。今回は、久しぶりに山岳スキー三昧。まずは、鳥海山まで長駆約652km走る。

鳥海山の山岳スキーは、2000年以来2回目。その時は、稜川コースだった。稜川は北面で雪質は良く、コースも短いので人気があるが、同じコースをやっても経験が積めないで、今回は強いて難しい鉾立コースを選択した。

鳥海山ブルーラインは、27日が開通日。登山口にある鉾立ヒュッテも27日が初日だった。ヒュッテは素泊まり1800-。有難く泊まらせて貰った。同宿者は、地元秋田の三人組と宇都宮のご夫婦。我々以外、ヒュッテから少し下った吹浦コースを予定だった。しかし、後で分かったが、御浜小屋に上るには、吹浦が単純で短かった。

ヒュッテは、親切で温かかった。私が出掛にストックが片方見つからなく拝借を申し出たら、気持ち良く貸してくれた。結果的には見つかったので、拝借はしなかったが。



鉾立ヒュッテ



鉾立登山口の雪壁

天気はサイコーに良かった。同行者はなし。鉾立コースは所々、雪が切れスキーを背負った。新調したスキーは軽量なので、余り負担ではなかった。溶岩で作った石階段を上る。上は広大な雪原だった。雪は程よく締りシールは走った。快晴な上、適当に赤布が入っているので迷うことはない。



左に左に進み、上り切ると御浜小屋に出た。誰も居なかった。小屋南は夏ならば大きな鳥海湖があるが、まだ見えない。小屋東には、扇子森ピーク。ここも雪が切れているのでスキーは背負う。だが、帰りは北側を滑れた。

扇子森ピークから雄大な千蛇谷・新山を眺める。なかなか厳しそう。今回の山行は、千蛇谷の下降が大きなポイントだった。過去の記録でも皆さん苦労している。もっと良いルートはないものかと、扇子森北側を偵察したが良いルートは見つからなかった。



扇子森から鳥海山

再び岩階段を上る。この辺りで、歩きの単独行に抜かされた。彼は七五三掛から千蛇谷を行かず、外輪山を上って行った。

また、単独が上って来て抜かした。彼は夏道でなく右手の雪溪にスキーを背負って来た。ルートを知っていた。この時期、雪が締まっているので歩いた方が速く楽だ。

彼は七五三掛を進んだ。スキーはテレマークだった。

七五三掛は、北面でカチカチに凍っていた。しかも、可成りの急斜面で恐ろしい。ピッケルを車に置いて来た選択はマズかった。我々、山屋にストックは信頼がない。やっぱり、ピッケルなのだ。



千蛇谷の下降

千蛇谷降り口を見た。物凄い急斜面を5～60mトラバースして谷に降りる。

テレマークのトレースは、10mほど歩き、途中でスキーを履いた。

しかし、こんな急斜面でテレマークは、スキーを履けるのだろうか。先行者は、我々を嘲笑うように、既に千蛇谷を上っていた。

どうにも踏ん切りがつかない。時間は既に11時を回った。



千蛇谷・先行者が見える

いつもの習慣なら12時にピークを踏まなければならない。頂上の新山まで、残りの標高差は約366m。今、千蛇谷に下りても、まだ1時間以上は掛かる。

そもそも、ここまで標高差約720mを4時間は、時間が掛かり過ぎではないか。

その理由は、コースが未知だった・岩尾根を歩いた・年齢の力不足、などが原因。

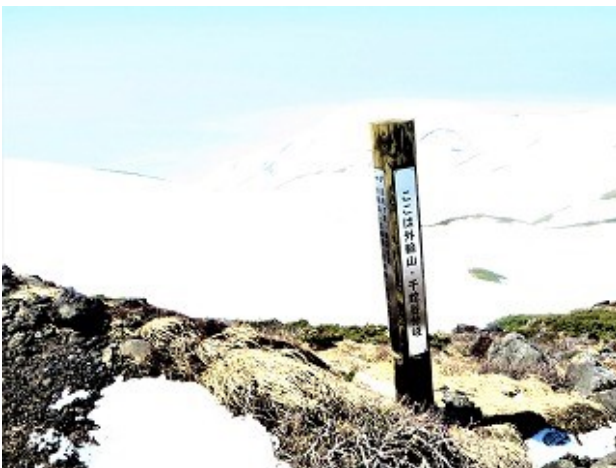
苦渋の決断だったが、今回はここで終わりにした。捲土重来である。

これが現在の我々の実力だった。ピッケルがあれば確実に行けるが、それをいっても始まらない。

しかし、再挑戦はあるだろうか。

登頂は出来なかったが、鉾立コースを選択した悔いはなかった。

新しい発見は多かった。山は常に新鮮な感動が必要なのだ。



七五三掛

下山は快適だった。御浜小屋までザラメを滑って昼食。
ラーメン・ビアが美味かった。



御浜小屋は多くのスキーヤー・登山者で溢れていた。多くの方はここまで往復。
ヒュッテで一緒だった宇都宮の方がいた。笙ガ岳に行くといっていたが変更したようだ。
ここから周遊道まで、標高差約520mの滑降は、いままでの憂さを晴らすような、超素晴らしく、快適なスキーだった。やっぱり、北面のスキーはサイコーだ。
鉾立登山口に帰るには、相当、右方向に下る必要がある。しかし、手前に尾根があり、完全に鉾立コースには戻れない。
末端まで滑ると、何やら網が張ってあった。左手からスキーヤーが2名、網に沿って歩いてきた。
網は、転落防止のものだった。



網の向こうは、鉾立に向かうブルーラインで、雪壁が3mほど落ちていた。天候が悪く転落したら大きな事故になりかねない。

断崖に沿って右に移動。この手のことが得意な相方が、ブッシュが垂れている場所を見つけ下りだした。ところが、やっぱりかなりの壁で、なかなか難しい。

そこに丁度、若い衆が2名下からやってきた。若い衆は、躊躇なく我々のサポートをしてくれた。

スキーとザックをあらかじめ下して、ブッシュを掴み降りる。下で足を支えてくれた。2人のお陰で無事下降に成功。事なきを得た。

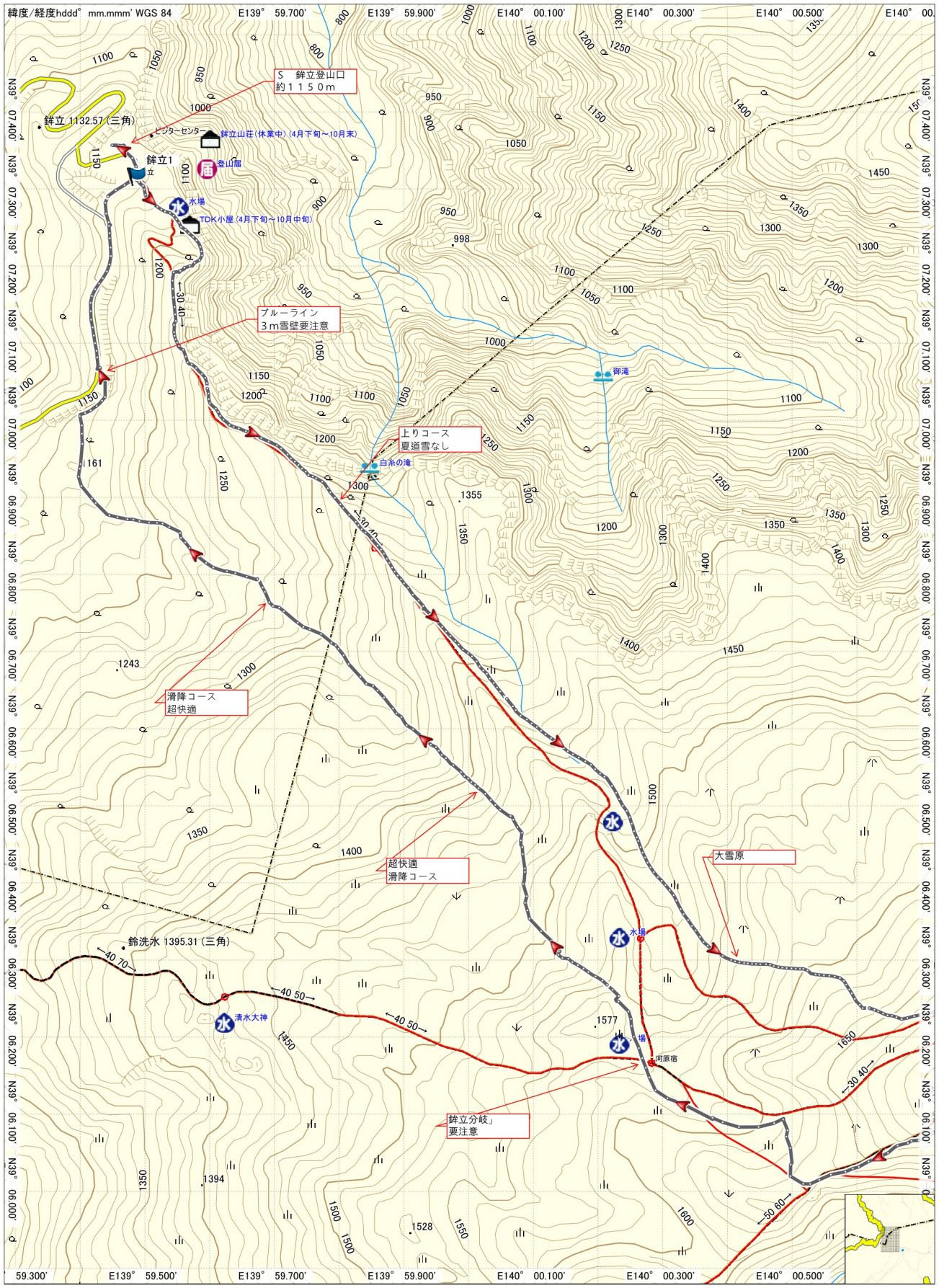
なんて気持ちの良い若い衆だろう。若い衆といっても60前の2名だった。宮城から来たという。スキーとボードだった。今回は結果的に各地で人情の機微に触れることが多かった。索漠とした世の中、まだまだ捨てたものではない。

先に歩いていた2名も最終壁で救済した。若い衆は、1日置いてまた葎川コースに来るといった。駐車場に帰り、お礼にビア2本上げた。

下山後。象潟に住むKさんを訪ねた。Kさんは10数年前、十里木の別荘地に住んでいた。久しぶりの面会だったが、お元気そうで何よりだった。その後、入浴して次の目的地の月山に向かった。

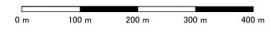


宮城のボーダーさん



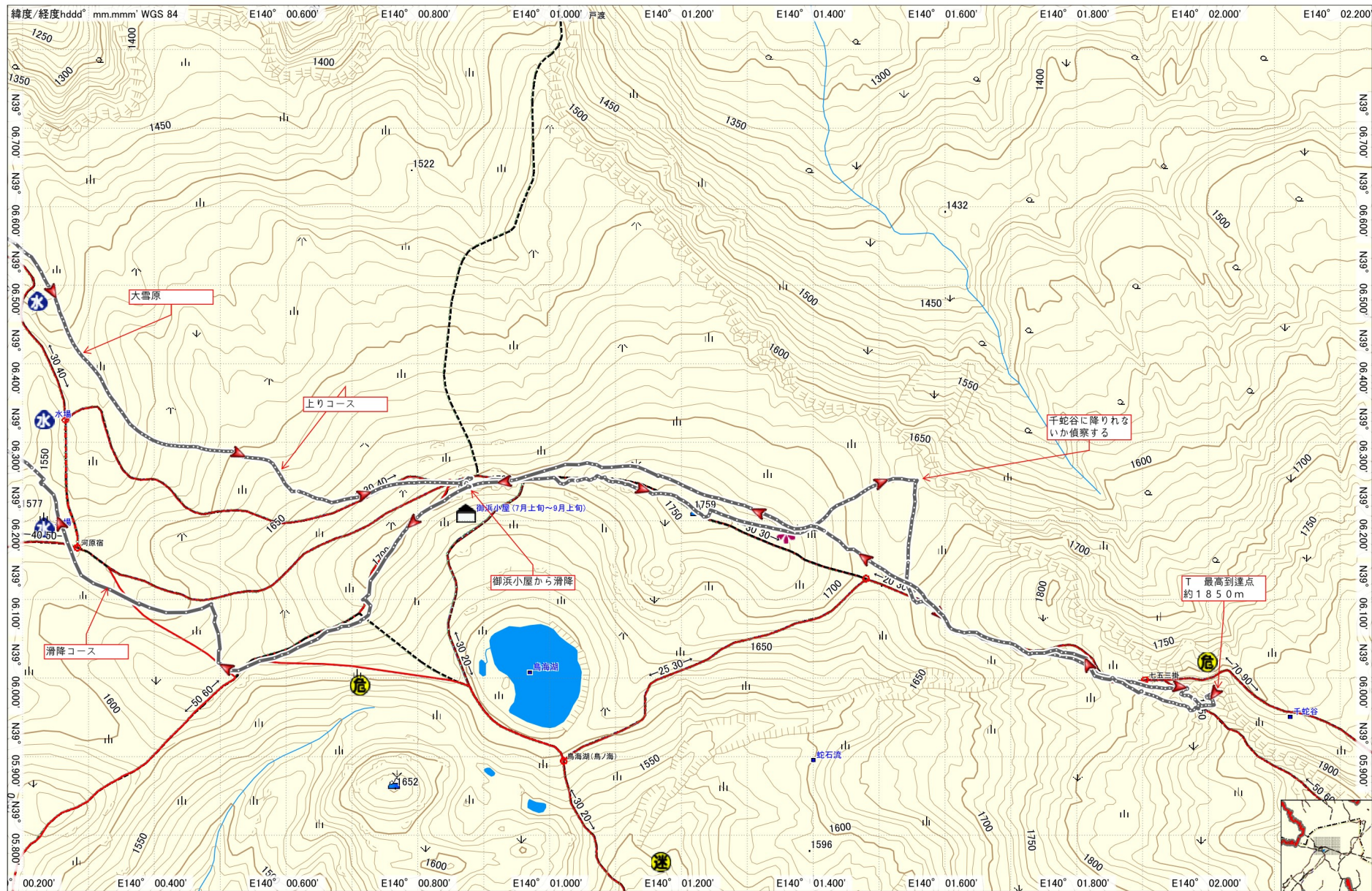
Japan Topo 10M Plus V3
 © GeoBridges Co., Ltd 2014
 Garmin Corporation 1995-2014

2018/05/02 16:03:01



GARMIN





Japan Topo 10M Plus V3
 Copyright ©, Ltd 2014
 Garmin Corporation 1995-2014

2018/05/02 16:03:01



GARMIN



2018/01/01